

令和4年度 日本大学豊山女子高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の建学の精神「自主創造」に基づき、ものごとを正しく判断できる素直な心と心身ともに健康で明るく、思いやりがあり、常に学習を大切にする生徒の育成を目標とする。また、個性の教育を尊重しながらも集団の中でも責任を持って人と協調できる人間に成長させることのできる教育機関を目指す。

【本校の特長及び課題】

本校は、日本大学付属校の中で唯一の女子教育を専門とする高等学校・中学校である。大学進学率の向上はもとより、創造力と人間的な魅力ある人物の育成を目標として、社会で活躍する女性を目指した教育を実践する。

今後、さらに生徒の可能性を最大限に発展させることができる教育の場となるよう、生徒の教育環境の整備と学習効率の向上に努める。

令和4年度の取組結果

【概況】

新型コロナウイルス感染症により様々な学校活動に制限が掛けられて3年が経過した。本年度も完全に通常の生活に戻ることはできなかったが、状況を見ながら少しずつ授業や行事も実施することができた1年であった。

本年度の授業については、コロナ禍ではあるが原則対面授業が実施できた。基礎学力到達度テスト、修学旅行出発前は該当学年のオンライン授業を実施し、安全対策を徹底した。高等学校の修学旅行は目的地を海外から国内に変更し行うことができた。部活動の合宿や中学の宿泊行事については日数の短縮や中止もあった。その他の行事においても、その時の情勢に鑑みながら可能なことを実施していった。進学指導においては、安易な選択がないよう確認しながら行い、日本大学への進学は60%を超える結果となった。保健衛生においては、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐための予防も徹底して行った。生徒は手指の消毒などをよく行い、学校内では大きな感染は起きていない。中学校では自発的に学習する習慣と基礎学力の定着を徹底し、学力を身につけるサポートをするための放課後学習、通称B Jメンターを導入した。

次年度についても引き続き新型コロナウイルス感染症の対応を行い、可能な限りコロナ前の状態に戻していきたい。充実した教育内容、安全安心な学校生活を目指し、魅力ある学校づくりをしていきたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」, 「高大接続改革」への対応	高等学校新学習指導要領に合わせ、普通科（N進学・A特進）・理数科（理数S）の特色を生かした新教育課程を作成することができた。さらに、新たに加わる観点別評価についてもよく議論し、シラバス書式、評価基準を作成することができた。要となる「総合的な探究の時間」については、これまで実践してきたプログラムや高大連携を活用しつつ生徒たちの探究活動を支えた。活動においては新型コロナウイルス感染症の影響により制約を受けたが、ICTを活用することで大学や企業とのオンライン交流を可能とするなど、新たな試みにも挑戦することができた。英語4技能評価やポートフォリオについては、タブレット内のアプリを活用することで継続して対応している。	A
探究学習への取組 （SSH申請に向けての取組）	高等学校での探究学習の取組、中学でのキャリア教育は、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画を大きく変更せざるを得なかったが、ICTを活用することにより、課題の発見、調査・考察、そして発表へと続く一連の流れを可能な限り体験できるよう工夫した。オンラインによる講演会や遠隔地との交流は、これまで以上に生徒たちの知の世界を広げる契機となった。今後は探究学習が生徒	A

	<p>たちの進路選択にまで結びつくような実のあるものとするのが求められる。また、学習成果を学内に終わらせることなく外部にも積極的に発信していくことが重要である。引き続き、コロナ禍における新たな探究活動を模索する必要がある。</p>	
国際交流教育の取組	<p>海外修学旅行（高校2年）、ブリティッシュヒルズ研修（中学2年）、海外英語研修（高校：カナダ）など、取り組んできたプログラムが、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた。中止となった取組もあったが、これに代わり、高校2年生修学旅行では日本在住留学生との交流を中心とするプログラムに参加し、異文化に対する理解を深めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応が緩和され、海外渡航等ができるようになったので、ターム留学、1年留学する生徒がコロナ禍以前よりも多くなった。ニュージーランド春季短期留学（中学生希望者）についても希望者が多く、国際感覚と語学力を養っている。</p>	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<p>HRを中心とし、生徒一人ひとりの意識が向上するように機会を見つけて啓発活動を継続していく。いじめアンケートは年2回実施。実際にいじめが発生しているとの情報があった場合は、すぐに状況確認・聞き取りを行い、必要に応じて臨時でアンケートを実施する。以上の2点を重点的に行っているため、達成状況評価は高かったと感じている。今後も継続していきたい。</p>	A
挨拶の励行	<p>全教職員が共通の意識を持ち、率先垂範する取組が効果を得ている。生徒から積極的に挨拶する姿が多く見受けられ、来校者の方々からも、生徒の挨拶が素晴らしいとの声を多くいただくことができた。今年度に関しては教職員の挨拶に対する意識が非常に高かった。今後も教職員含め、更に向上できるよう努力したい。</p>	A
登下校時におけるマナーの向上	<p>例年に比べると苦情は少なかったように思う。全教職員が登下校指導に立ち指導することで、徐々に効果が出ていると感じている。駅からの通学路が狭いため、自動車とのすれ違いの際、生徒が道を譲らないという指導の電話や公共交通機関（バス・電車）での生徒の談笑等についての指導の電話を数回いただいた。いかなる場面でも、互いに譲り合う気持ちを持てるようにしたい。今後も継続していきたい。</p>	A

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動・委員会活動の充実	<p>年間を通じて部活動を実施できたのは、何よりも良かった。少しずつではあるが、生徒たちの笑顔や活気あふれる学校生活が戻ってきたように思える。まだまだ予断が許されない状況が続いているので、感染防止と安全第一で運営できるよう、生徒会指導部の方からも周知していきたい。</p> <p>委員会においては、4月の年度始めに招集を行い、活動内容等を確認したい。実状に合わせた各種委員会の活動内容やより活発で効率的な活動を推進していけるよう、確認しながら諸活動を進めていく。</p>	B
課外活動における自主性・協調性の伸長	<p>本校における課外活動の中心である、近隣小学校との交流活動や日本大学認定こども園保育ボランティアが3年ぶりに実施できたのは、何よりも良かった。日本大学付属高等学校生徒会サミット、NU-K日本大学付属高等学校関東交流会は</p>	B

	今年度も中止となってしまったので、次年度以降の開催に期待したい。これ以外には、東京都や板橋区からの広報紙等活用できるものは多々あった。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でほとんど活動できなかったが、次年度はこれらを活用し、本校生徒が活発に各種ボランティアに積極的に参加できる機会を提供していきたい。	
--	---	--

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	今年度は、例年本校で実施しているような学部から講師と卒業生を招いての説明会を2年ぶりに対面で実施し、多くの生徒が参加することができた。また、学部案内等の設置、配布により日本大学への進学希望者増加を目標に取り組むことができていた。その結果として日本大学への進学者（一般選抜者は除く）は昨年度に引き続き在籍者の約60%が進学することになった。	A
大学新入試制度への対応	多様化する大学入試制度の情報を、各学年の進路ガイダンスや三者面談などを通して生徒・保護者に適宜発信することができている。また、大学入試情報や案内など進路の掲示板やClassiなどを利用して周知することができている。	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校感染症などへの対応	新型コロナウイルス感染症等の感染症拡大を防ぐための対策として、予防の徹底及び啓発活動や消毒液の設置などを行ったことで、校内での感染症拡大を最小限度に収めることができた。	A
保健室・生徒相談室の施設設備への配慮	身体的不調を訴える生徒だけでなく、心理的な不調を訴える生徒が多くなっている。保健室の人員・設備の問題等が課題として挙げられる。	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
読書教育	令和4年度、新型コロナウイルス感染症に関する対応のため、読書教育を推進させることが困難であった。例年、蔵書点検の際に図書委員の協力を得て実施してきたが、本年度は生徒の協力を得て実施することができなかった。 図書委員（中学生）が蔵書点検の手伝いを行うことで、「自分たちの図書館を、自らの手で整える」という意識を持てるよう配慮し努めている。	C
図書館利用の推進	令和4年度、図書選定委員会に、各教科等の購入希望図書の受皿となるよう協力を求めた。結果、図書選定委員会からの選書・リクエストが増加、教職員の利用者数が増加した。また、生徒からの希望図書のリクエストカード受付箱を書庫、及び生徒ラウンジに設置して、購入図書に生徒の希望が反映されるよう工夫、配慮した。 利用しやすい図書館となるようテーマを設けて、使い勝手の良い図書の配架・展示を意識した。図書選定・展示等一層魅力ある図書館づくりを推進する。 新型コロナウイルス感染症への対応をしながらも、利用者数は増加した。 高校生、中学生を対象として、「多読賞」を再設定し、貸出冊数の上位者に対して、「個人部門」で表彰（各3位まで）を行うことにより、図書館利用の促進を図っていく。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校案内・Webサイト・校報誌の充実	学校案内からのブランディングをテーマとして継続性を重視した。本校の教育活動の周知に大いに役立った。	A
志願者の増加	このような社会情勢の中、単純に前年度と比較はできないが、説明会参加者の反応は大変好評であり、志願者確保へつながった。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員の適正な勤務体制	教員へ変形労働時間制を導入して6年目に入り、更に勤務管理の徹底を目指すことで、教員の適正な勤務体制を整えた。また、働き方改革に即して、更に教員の勤務体制への意識変革を推進している。	A
施設・設備・校地・校舎	施設の維持・管理に努めた。また、省エネ・経費削減等を鑑みながら施設の健全化を行った。また、次年度以降も予算化を行い工事の発注準備を進めている。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

<p>教育活動について、新型コロナウイルス感染症の影響により制約を受けたが、ICT機器を活用することで大学や企業とのオンライン交流を可能とするなど、新たな試みにも挑戦できた。高校の修学旅行については海外から国内に変更して実施したが、日本在住留学生との交流プログラムに参加し、異文化に対する理解を深めることもできた。また、海外渡航も可能になり、ターム留学、1年留学を希望する生徒もコロナ禍以前よりも多くなった。中学生のニュージーランド春期短期留学についても多くの希望者が多かった。教員研修などもZoomでの開催も多くなり参加しやすくなっている。</p> <p>部活動は年間を通して実施することができ、大会なども行われた。夏休みの合宿については感染者が増加したこともあり一部中止にした部活動もあったのが残念であった。様々な活動を通じて生徒に笑顔や活気あふれる学校生活が戻ってきたようである。近隣小学校との交流活動やこども園保育ボランティアも3年ぶりに実施できた。しかし、日本大学附属高等学校生徒会サミットやNU-K日本大学附属高等学校関東交流会は中止となってしまったので、次年度の開催を期待したい。</p> <p>進路指導の説明会では2年ぶりに対面で実施できた。看護や医師の体験型行事ではオンライン体験もあり、参加した生徒の進学の動機付けとなっている。</p> <p>保健衛生では、新型コロナウイルス感染症などの感染拡大を防ぐために予防の徹底及び啓発活動や消毒液の設置などを行い、校内での感染症拡大を最小限に収めることができた。</p> <p>図書では、新型コロナウイルス感染症の対応のため、多くの生徒が図書を手にすることから、読書教育を推進させることが難しかったが、利用する生徒は確実に増えている。感染対策を万全にして図書館利用を促進していきたい。</p>

令和5年度の取組目標及び方策

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	常に情報収集に努め、教務部とカリキュラム委員会が中核となって新教育課程の導入を円滑に行う。新たな評価基準については、生徒・保護者へシラバスなどを通じて周知する。中高一貫校であることに鑑み、新教育課程の要となる探究学習について、中学校から高等	令和4年度入学生よりシラバスの項目変更。年度始めにシラバスやガイダンスを通じて高等学校新教育課程及び評価基準について生徒・保護者に周知する。

	学校へと連動する教育計画を作成する。	
生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	教員相互の授業参観を行い，向上を図る。教科全体のことは教科主任がアンケート結果を確認して，教科会で取り上げていく。教員個人の内容については，PDCAサイクルを適切に機能させる。	教科会開催時。各学期，教科指導報告書を提出し教科主任等で確認を行う。
「高大接続改革」への対応	学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を高校教育で確実に育成し，大学教育で更なる伸長を図るため，各教科シラバスで項目を立て，到達度を確認し評価できるようにしている。	令和4年度入学生よりシラバスの項目変更。次年度以降も学力の3要素を観点として見ていく。総合型選抜入試等にも対応していく。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	今まで同様，様々な機会を通して，「いじめはゆるさない」という姿勢を生徒に伝え，意識の向上に努めていく。また，外部講師を招き，教職員対象の研修会を実施し「いじめ」だけでなく，様々なハラスメント等の認識を更に高めていきたいと考えている。	生徒・保護者対象に本校教員及び外部講師を招き講習会を実施。 教職員対象での講習会も実施予定。
挨拶の励行	全教職員が率先垂範するよう共通意識を持つ。	登校時に限らず，校内での挨拶を心掛ける。
登下校時におけるマナーの向上	様々な場面において，登下校時のマナーについて話し，生徒たちが納得できる指導を実施していく。「苦情があるから正しなさい」という指導ではなく，「なぜマナーが必要なのか」という根本を理解させ意識を高めていく。 あわせて，生徒のみではなく保護者の方々にも理解・協力をいただけるように入学期のみならず，新学期の保護者会などでお願いや講話をするようにする。	月末までに翌月の登校指導当番表を作成する。 保護者にお問い合わせの印刷物を配布する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
部活動・委員会活動の充実	今年度は年間を通じて部活動は，大きな制限もなく実施できた。また，本校の2大行事でもある，体育祭（午前・午後に分ける制限あり），文化祭の両方を実施し，成功したのは今後につながっていくと確信している。少しずつ日常を取り戻していき，部活動の加入率も向上させたい。そのため，充実した部活動紹介にしていきたい。やれることをしっかり考え，部活動については，加入率や競技実績がより向上するように生徒たちに耳を傾け，生徒会総務役員とともに進めていく。委員会活動については，各種委員会の活動内容を新たに見直し，必要な委員会については実情に沿った形に変更していく。そのことで衰退させるのではなく，より活発	現状の活動内容や生徒会との関連を見直し，活動に偏りがなくかつ日頃から活発でやりがいのある活動ができるように進める。

	で効率的な活動を推進していく。	
課外活動における自主性・協調性の伸長	少しずつ本来の日常を取り戻していき、本校生徒がボランティア活動へ積極的に参加できるような方策を講じていきたい。具体的には広報紙等をタブレット配信、校舎内での掲示箇所の増設等である。また、これまでの課外活動についても一人でも多くの本校生徒が参加するようにサポートしていく。	各月初めに届く広報紙を毎月吟味し確認の上全校生徒へタブレット配信する。 紹介したボランティア活動や行事に参加を希望した生徒については、事故やトラブルが起こらぬよう学校で管理する。 これまでの課外活動については担当者と連携を図り可能な限り携っていく。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	本校での全学年対象進路説明会の充実と、学部でのオープンキャンパスへの積極的な参加を促すことで日本大学への進学希望者の増加を目指す。	進路説明会とオープンキャンパスの案内は従来どおり行う。 また、各学部と連携をして、個別に説明会なども計画する。
大学新入試制度への対応	多様化する大学入試制度の情報を、ガイダンスや面談などを通して生徒・保護者に適宜発信する。	進路相談室の活用、ガイダンスや面談の実施、Classiなどでの情報発信等

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
カウンセラーとの連携	精神的不調の生徒が増えているので、教員とカウンセラーとのコンタクトが取りやすい環境を整える。とりわけ不安定になりやすい中学生の支援体制を整備する。	適宜実施
保健室・生徒相談室の施設設備への配慮	保健室の人員補充については早急な対応を希望する。	随時

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
読書教育	各学級に図書委員が選定した本である「学級文庫」を定期設置することにより、生徒の読書に対する興味・関心を更に高める。高校生・中学生を対象とした「多読賞」を設定し、生徒の読書離れの改善に資するよう、更に充実させていく。生徒の図書リクエストに応じた適切な対応を強化する。生徒の変化する興味や関心に寄り添う図書の選定、図書資料を今後も継続して整備する。	図書館「多読賞」対象（冊数）期間：令和5年4月～令和6年1月の貸し出し冊数が中学校及び高校でも増加するよう工夫する。なお、本年度『多読賞』表彰を令和5年3月の修了式で行うことを計画し、高等学校・中学校新入生の意識を向上させたい。
図書館利用の推進	令和5年度、新型コロナウイルス感染症に関する対応のため従前にも増して、より「安全」「安心」な図書館	「新学習指導要領」及び「高大接続改革」施行に向け、生徒、教

	<p>環境を整備できるよう引き続き努力していく。</p> <p>令和5年度、高等学校・中学校の修学旅行実施に伴い、事前の「探求学習」に資するよう新しい資料を整備し充実させる。</p> <p>利用しやすい図書館となるようテーマを設けて、使い勝手の良い書架・展示に改善する。図書の選定等一層魅力ある図書館づくりを推進する。</p>	<p>職員の学習、研修に資する図書の充実を促進する。図書館環境の一層の改善を図ることにより、図書館利用の推進を図る。</p> <p>特色のある「図書館の本」企画を更に充実させ、貸出冊数を増加させるよう努める。</p>
--	---	--

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校案内・Webサイト・広報誌の充実	本校の教育目標、教育内容、特に新しい取組について工夫し発信していくことを継続する。	「自主創造」の精神に基づき、計画的に制作する。
志願者の増加	学校説明会の様々なプログラムを通して、本校の良さをアピールし、志願者の増加を図る。	学校説明会、外部説明会、塾訪問など年度当初にスケジュール・内容を決定し、効果的に実施する。

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の適正な勤務体制	教員へ変形労働時間制を導入し、勤務管理の徹底を目指すことで、教員の適正な勤務体制を整える。	働き方改革に即した勤務体制を目指すとともに、導入7年目を迎える変形労働時間制に基づき、更に教員の勤務体制への意識変革を推進していく。あわせて優秀な非常勤講師を確保し、教学の充実を目指す。
施設・設備・校地・校舎	校地内にある法定外公共物を板橋区との間で交換・売払いを完了させ、理事会にて承認された重要整備計画に基づく着工への準備を進める。	土地境界図の確定など、交換申請書類の板橋区への提出を進める。

中長期的目標の取組結果

管理部門

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員の学校運営等のスキル向上	教職員を対象とする学内外の教科別・業務別などの研修会への参加を促し、積極的に参加費・交通費などの予算を計上することで、個人のみならず学校としての教育・運営スキル向上に繋げている。	A
教職員の人材確保	優秀な専任教職員を新規採用等によって確保し、学校組織の安定化を図る。令和4年度は、教諭1名、常勤講師A1名を採用しクラス担任として生徒指導等に邁進している。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の学校運営等のスキル向上	学外で実施される教科ごとの研修のほか、学内においても教員同士の授業見学・研究等を行い、学校運営・生徒指導の向上を図る。	学内では専任教職員向けのSD研修会として、①財政説明会（4月）、②いじめに関する講演（7月）、③学校のリスクマネジメントに関する講演（8月）を実施した。学外では教職員とも日本大学管理職研修会や私学経営研究会等に参加した。これらは今後も継続していく予定である。
教職員の人材確保	優秀な専任教職員を新規採用等によって確保し、学校組織の安定化を図る。	人件費予算と年齢構成を長期的に捉え、生徒数に応じた適正な人数の優秀な専任教職員、常勤講師を採用できるよう年度ごとに計画する。